

チラシ(A4)あり

令和3年9月24日

市政記者クラブ 様

名古屋市秀吉清正記念館
担当 主査・山田、学芸員・小西
電話:411-0035

秀吉清正記念館 30 周年記念
特別陳列「ねねと秀吉の遺宝 ー近江木下家資料ー」を開催します。

秀吉清正記念館では、みだしの特別陳列を下記のとおり開催しますので、お知らせします。

記

1. 趣 旨

秀吉清正記念館は平成3年(1991)に改築、館名を変更し、今年で 30 年を迎えました。このたび、これを記念し、特別陳列「ねねと秀吉の遺宝 ー近江木下家資料ー」を展示します。

秀吉の正室ねね(1549?～1624)は夫の没後、朝廷から院号を賜り、高台院こうたいいんと称しました。そして京都東山に高台寺を創建し、夫の菩提を弔う生活に入りました。実子がいなかったねねは、晩年に木下利次(ねねの実兄の孫)を養子に迎えました。寛永3年(1626)に、利次は近江おうみ(今の滋賀県)に3000 石の領地を得て、旗本(江戸幕府直属の家臣)として近江木下家を興しました。この家の使命は、ねねの遺品を受け継ぎ、守り伝えていくことでした。こうして残された品々の中心部分はまとまって現在に伝わり、名古屋市指定文化財となっています。

今回の展示では近江木下家資料の中から、ねねと秀吉の思い出の品々を中心として、江戸時代の近江木下家の動向も併せて紹介します。

2. 主 催 名古屋市秀吉清正記念館

3. 会 場 名古屋市秀吉清正記念館(中村公園文化プラザ2階) 特別展示室

4. 会 期 令和3年 10 月9日(土)～12 月5日(日)
休館日:毎週月曜日、第4火曜日(10 月 26 日。ただし祝日の 11 月 23 日は開館)
開館時間:午前9時 30 分から午後5時まで

5. 展示件数 約 30 件

6. 入館料 無料

7. 主な展示資料（すべて秀吉清正記念館蔵、名古屋市指定文化財）

(1) 高台院(ねね)画像

江戸時代 寛文6年(1666)

ねねの43回忌に際して、追善供養のために描かれた肖像画。江戸時代前期に女性、尼僧を描いた画像は、年老いた顔つき、厳しい表情に描かれることが多いが、この画像は若々しく、ふくよかな表情に描かれる。

(2) ビロード陣羽織

桃山時代 伝豊臣秀吉所用

中国から輸入されたマントの生地を仕立て直し、陣羽織としたもの。人物、サル、竜、草花などの文様が、細やかな刺繍で表現される。ヨーロッパ、中国、インド、日本の文化の影響を受けたもので、桃山時代の文化交流のスケールを示す。

(3) 色々いろいろおどしにまいどうぐそく威二枚胴具足

桃山時代 伝豊臣秀吉所用

秀吉が文禄の役(1592～93、第一次朝鮮出兵)に際して、肥前名護屋城(今の佐賀県唐津市)で着用したと伝わる甲冑。付属品がすべて揃って残る、桃山時代の甲冑の優品である。ねねは秀吉が死去した翌年に大坂城を退去し、京都へ移り住んだ。この時に、(2)のビロード陣羽織などともに持ち出されたものと考えられ、それらが近江木下家資料の中心となっている。

(4) 豊臣秀吉画像

江戸時代中期 享保6年(1721) 藤原邦信画

(3)の色々威二枚胴具足を着用した姿を描いた肖像画。武装姿の秀吉画像は非常にめずらしい。

賛(絵の上部に書かれた文章)は近江木下家3代の秀三ひでみつが書いたもの。自身は秀吉のひ孫であり、秀吉は天下人であり、神でもあったと賞賛している。